
夢で逢えたら

神村律子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢で逢えたら

【Nコード】

N4115H

【作者名】

神村律子

【あらすじ】

初恋の人が夢に出て来る。淡く切ない思い出。

最近初恋の人の夢ばかり見る。

付き合っていたのはウン十年前。

先に結婚した私は、夫の仕事の関係で遠くに引っ越した。

もつずっと会っていない。

彼は同窓会にも出席しないから。

お互い会えばがっかりするほど容姿も変わってしまったはずだ
ど。

会わずにすむこともいいのかも。

でも夢に出て来る彼はその当時のままで、私もその当時の姿だ。

いつもの店で、いつものクリームソーダを1つだけ頼んで、スト
ロー2つで飲む。

体温がわかるくらい彼の顔が近い。

私は思わず赤面した。

彼はそんな私を見て優しく微笑む。

今までで感じた事のないほどの幸せな気持ち。

充実した心。

彼が何か語りかけているが、聞こえない。

私は「何？」と聞き返そうとするが、声が出ない。

彼は照れ臭そうに笑い、席を立つ。

私も慌てて立つ。

そこで目が覚める。

そんな夢が一週間ほど続いた。

数日経った夜、私はまた彼の夢を見た。

ずっと見続けていた夢の続きだった。

席を立ち、店を出た。

そこで彼は私を見て、

「さよなら」

と微笑んで言った。

「え？」

私は意味がわからず、歩き出す彼を追いかけた。

しかし、追いつけなかった。

そこで目が覚めた。

何故か私は泣いていた。

翌々日、一通の黒い縁取りの葉書が届いた。

彼のご両親からだった。

彼が亡くなったという知らせ。

ああ、あれは彼が最後のお別れをしに来たのだと感じ、泣いた。

葬儀の時、驚いた。

彼は独身のままだった。

ご両親に彼が大切にしていたものを見せてもらった。

それは私が出した葉書。

会えなかったけど、ずっと新年の挨拶と、暑中見舞い、残暑見舞いと出していた。

彼はそれを全部年代順にファイルし、保管していた。

一度も返事をもらえなかったので、何度もやめようと思った。

迷惑なのかな、とも思った。

でも、そうじゃなかった。

それがわかって嬉しかった。

私の初恋はこうして終わった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4115h/>

夢で逢えたら

2010年10月9日13時50分発行